

ローマを訪ねる

9/21～9/23, 26/2023

ールネッサンス・バロック時代の絵画、彫刻ー

私たちは、2023年10月末にローマを訪れる機会に恵まれました。過去2回ローマを訪れましたが今回もフォロロマーノ、ヴァチカンを始め、どの地でも古代ローマの繁栄がはっきりと遺されています。今回は短い滞在でもあり、ルネッサンス・バロック時代の絵画、彫刻のごく一部を鑑賞するため数カ所を巡りました。折からコロナ禍が収まって、世界各地から観光客が押し寄せてきており、どこも超満員。東京の通勤ラッシュを彷彿させるぐらい身動きができない場所もありました。不自由な中でも、その素晴らしい芸術作品は素晴らしいものでした。では、一緒に観ていきましょう。

以下、使用した写真はできるだけ自分で撮影したものをういしましたが、撮影できなかった写真はHPから転載しました。

今回泊まったホテル； The Westin Excelsior, Rome



バチカン広場





ヴァチカン美術館

1 階

絵画館
 ピオクレメンティーノ美術館
 エジプト博物館
 キアラモンティー博物館
 ピーニャの中庭

2 階

エトルリア美術館
 地図のギャラリー
 タペストリーの廊下
 ラファエロの間
 システリーナ礼拝堂
 ラファエロの廊下



ピーニャの中庭

通称松ぼっくりが見える



ピオ・クレメンティーノ美術館



円形の間

ベルヴェデーレのトルソー



ユリウス二世の治世にベルヴェデーレの中庭で発見された。ユリウス二世が欠けた部分を修復するようにミケランジェロに依頼したが、ミケランジェロは「いや、このままが美しい」と依頼を断ったという(紀元前1世紀頃の作)。

ベルヴェデーレのアポロン



ギリシア神話にある蛇の怪物、ピュートーンに弓を放ったアポロンの像
BC325 年頃レオカラスによる青銅彫刻のアポロンの像を基に 2 世紀に作成された大理石像 (2,2m 高)

ラオコーン

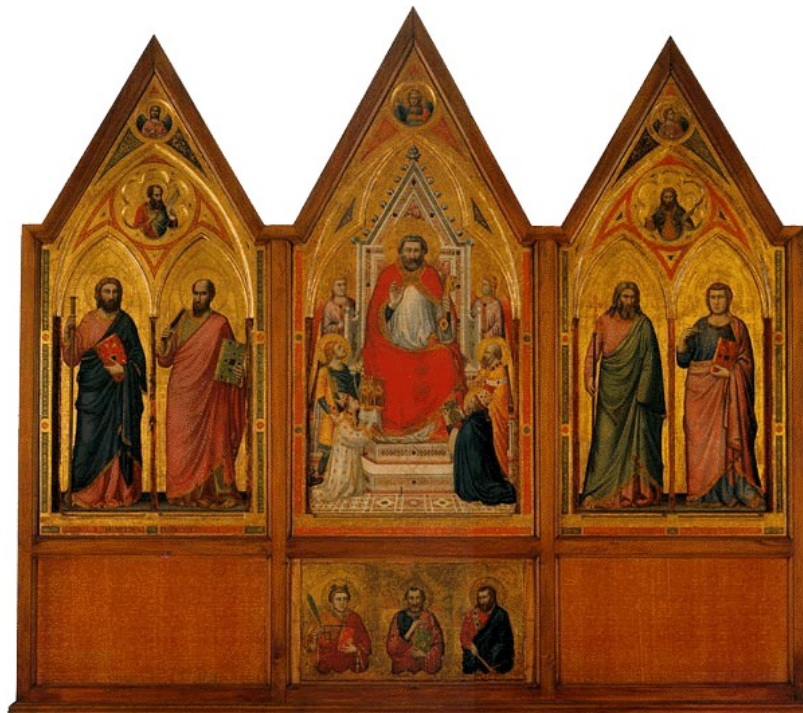


トロイの木馬がギリシア軍の計略であることをラオコーンは槍を投げつけて暴露しようとしたが、女神アテナに遣わされた海蛇に襲われて彼の 2 人の息子と共に殺された。トロイア人たちはこの木馬を聖なるものと信じ込み、隠れていた兵士によって滅ぼされた(紀元前 160 年頃作)

絵画館 Pinacoteca

2室 ジョットとゴシック美術

ステファネスキの祭壇画(ジョット作)



ジョットがステファネスキ枢機卿の依頼で描いた祭壇画。上下の画は前と後から観るようになっている。反対側には表と対応するモチーフ描かれている。

7室 祭壇画(デチェンヴィリ作)



高い玉座に腰かけている聖母マリアが描かれている。聖母の背後には丘のある明るい風景が広がっている

8室(ラファエロの部屋)

フォーリーニョの聖母



聖母の戴冠



キリストの変容

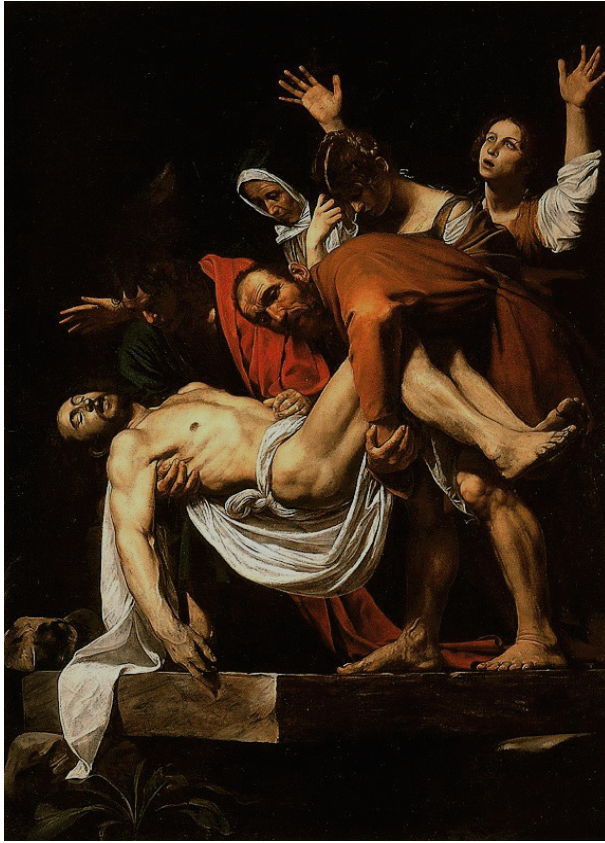


1512年ジュリオ・デ・メディチ枢機卿はナルボンヌ大聖堂のためにラファエロに『キリストの変容』の制作を依頼した。上下の二部構成になっている、上部はキリストの変容(キリストが3人の弟子と山に昇り、モーゼとエリヤとともに自ら白く光る姿を彼らに見せた)、下部は画面下部で、悪魔に憑依された少年を悪魔から解放しようとしている使徒たちを描いている。

キリストの変容上部



12室 キリストの埋葬(Caravaggio 作)



9室 聖ヒエロニムス(レオナルド・ダ・ヴィンチ作)



地図のギャラリー



燭台・タペストリーのギャラリー



無原罪の御宿りの間



聖母マリアがアンナの胎内に宿った時から原罪を一切受けていない、「無原罪の御宿り」という教義が1854年教皇ピウス9世により正式に定められたことを示す画。



ラファエロの間

1508年、ローマ教皇ユリウス2世は宮殿内全面的な改修を若い芸術家ラファエロに依頼した。

天井画・アダムとイブ



コンスタンチヌスの間
ミルヴィオ橋の戦い



十字架の出現



312年コンスタンティヌス帝は宿敵マクセンティウスと戦い勝利する、その最中に十字架が現れ、帝はキリストの加護の下にあったこと気づき、ローマ帰還後聖堂を捧げキリスト教を公認した。そして自ら洗礼を受けた。

コンスタンチヌスの洗礼



コンスタンチヌス帝はローマに建てた最古のラテラーノ聖堂で洗礼を受けた。

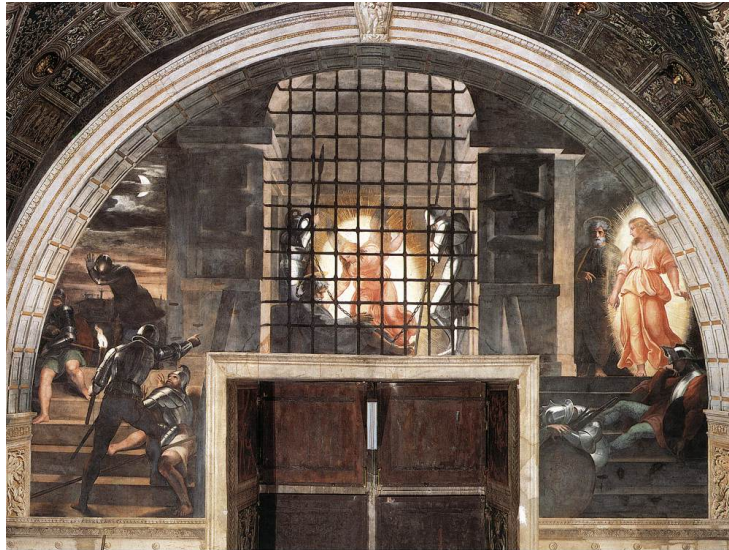
ヘリオドロスの間

大教皇レオとアッティラの会談



ヨーロッパを震撼させたフン族の王アッティラをローマ教会の教皇が抑えたという挿話に基づく。聖ペテロ、聖マウロが頭上に現れ馬が驚いている。

聖ペテロの解放



署名の間

正義の女神(天井画)



アテネの学堂



部屋の外観



アテネの学堂に集う人々



- ①エピクロス②アレキサンドロ大王③ソクラテス④プラトン（レオナルド）⑤アリストテレス⑥ディオゲネス
 ⑦ゾロアスター⑧プトレマイオス⑨アルキメデス⑩ヘラクレイトス（ミケランジェロ）⑪パルメニデス
 ⑫ピュパティア（ラファエロの愛人）⑬ピタゴラス⑭ボエティウス⑮アヴェロエス⑯プロテイノス
 ⑰アイスキネス ↓ラファエロ

聖体の論議



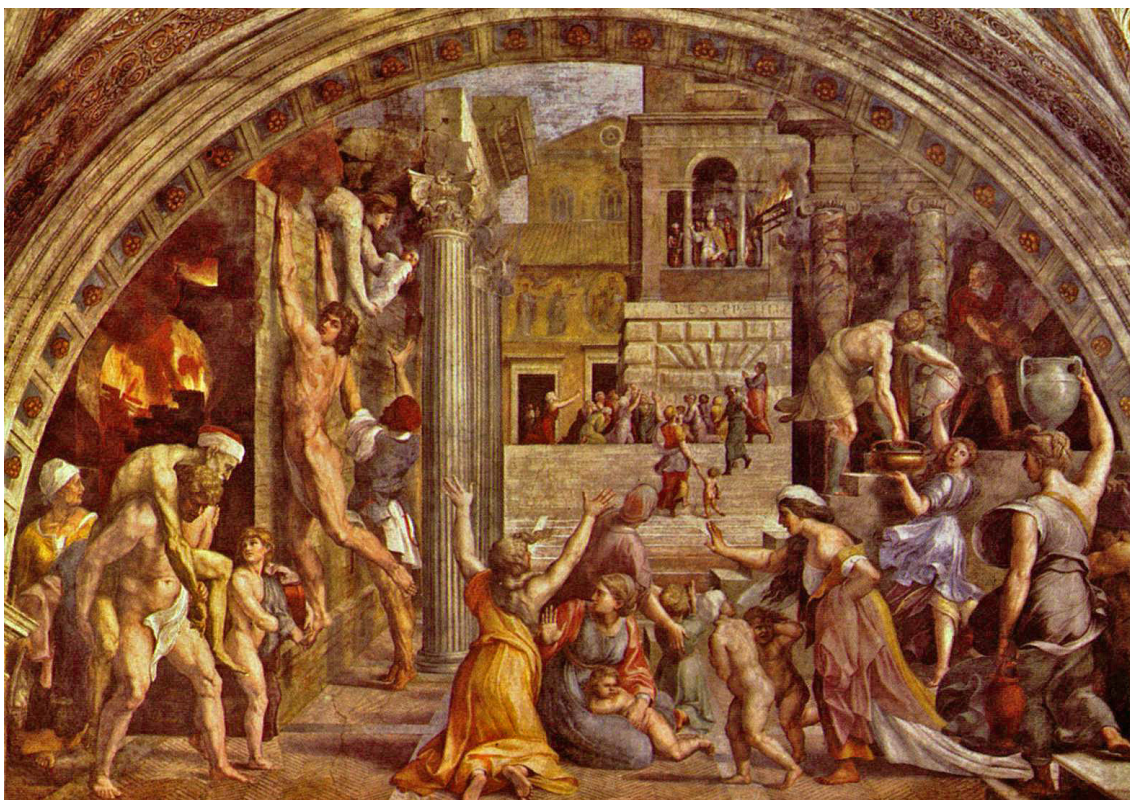
上は天国 中心に父なる神その下の中心にキリスト、その左右に聖母マリアと洗礼者ヨハネが座している。雲の上には教会の勝利を表す聖人達が並び瞑想している。下は地上で祭壇を挟んで博士と神学者が議論している。

ヘリオドロスの間



ヘリオドロスは財宝を奪うためにエルサレム神殿に入ろうとしたが、天使が追い出した。

ボルゴの火災の間



847年にローマ・ボルゴ地方で起きた火災をレオ4世が奇跡を起こして消し止めた。

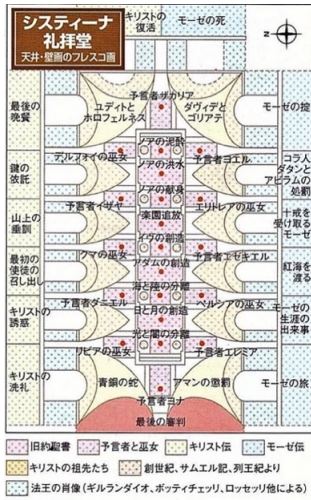
オスティアの戦い



849年レオ4世がオスティアの戦いでサラセン人を打ち破ったことを描いた

システィーナ礼拝堂

(ミケランジェロ作)



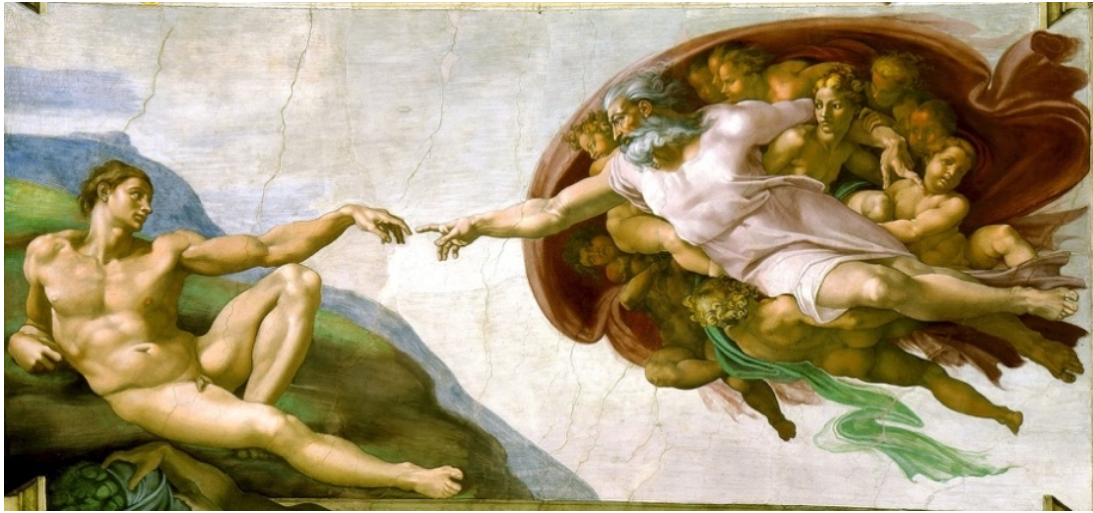
天井画



イヴの創造



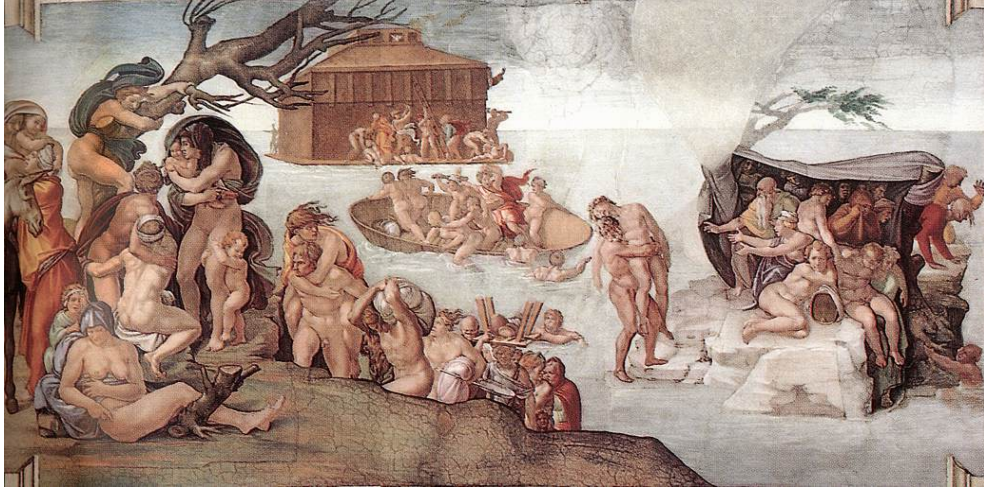
アダムの創造



禁断の園



大洪水・ノアの箱舟



乳飲み子を抱えている人々（上図の右部分）



12の予言者と巫女

ヨエル

リビアの巫女



最後の審判(ミケランジェロ)

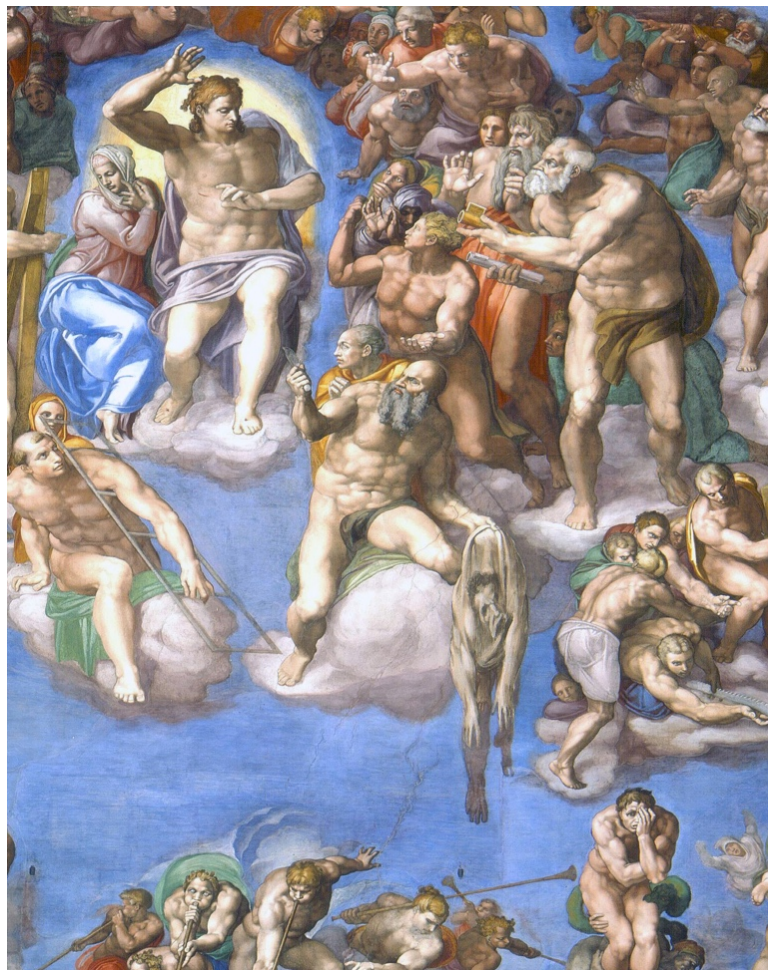


ミケランジェロが教皇ユリウス二世に依頼されてシスティーナ礼拝堂に描いたフレスコ画。1541年に完成。世界の終末にキリストが現れて全人類を裁き、天国行きか地獄行きかに振り分けている。

最後の審判上段「天国」

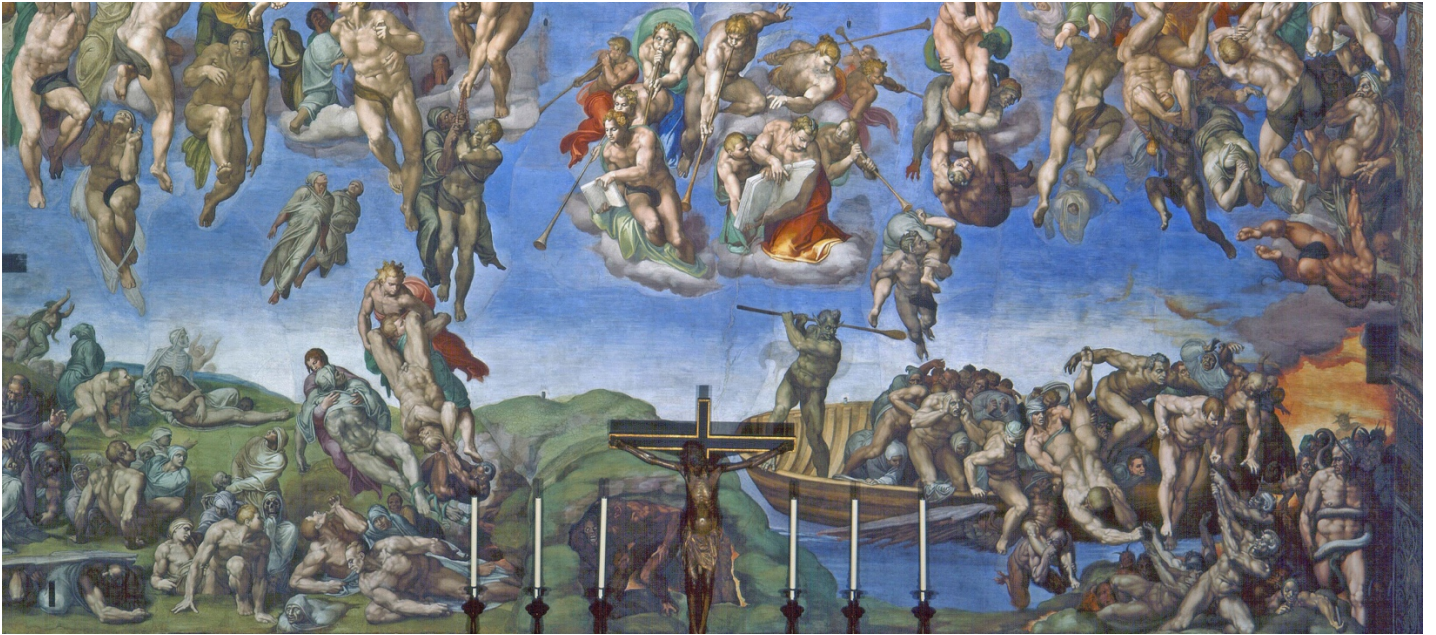


中央に再臨したイキリストが右腕を振り上げ、死者に裁きを下し、向かって左側には天国へと昇天していく人々が、右側には地獄に落ちる人々を下方に向けて崩落させている。



中央にキリスト、両脇に聖母マリアと聖ヨハネを配し、右下に自分の生皮を持つ④聖バルトロメオ（この生皮は苦悩するミケランジェロの自画像）を描いている。

最後の審判下段「地獄」



下端は地獄編。左は煉獄。右は地獄でダンテの神曲地獄編をテーマにしている。中央に十字架を配し、その脇は渡し船を操る⑩カロン。右端は蛇に巻かれる⑩ミノス。



最下段の詳細:冥府で渡し船を操り地獄に落ちた人間を櫂で叩く⑩カロン、⑩蛇に巻かれるミノス
完成した画に対して儀典長が裸体が多いので修正せよ命じたが、ミケランジェロが恨みに思い、
彼をミノスに似せて描いたという。

最後の審判には全体で 400 人の人物が描かれている。①キリスト②マリア③聖ペテロ④聖バルトロミオ
⑤聖パウロ⑥聖アンデレ⑦洗礼者ヨハネ⑧聖カタリナ⑨聖セバスチャン
⑩冥府のミノス⑪渡し船を操るカロン

東西の壁面



中層と下層は「モーゼの生涯」と「キリストの物語」がフレスコ画で描かれている

モーゼの試練(ボティチェリ作)



キリストの洗礼(ペルジーノ)

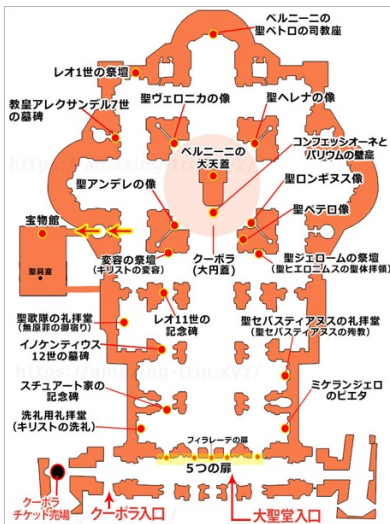


サン・ピエトロ大聖堂

外観



内部

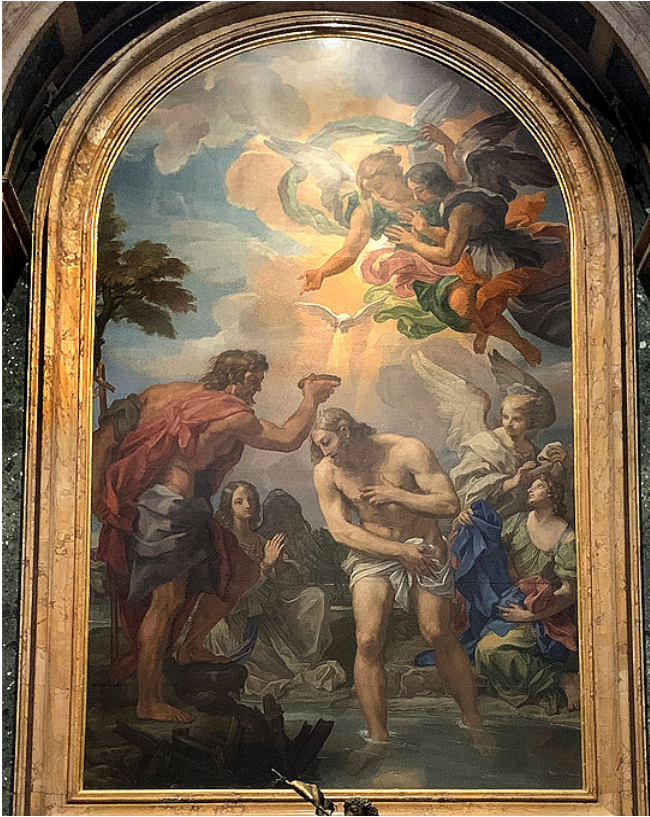


大天蓋(ベルニーニ作)

司教座



キリストの洗礼



キリストの変容(ラファエロ・コピー)



ピエタ(ミケランジェロ作)



ボルゲーゼ美術館

16世紀に権勢を振るったボルゲーゼ枢機卿が建設した別荘に蒐集した多くの美術品を収めた。ボルゲーゼ美術館には枢機卿がスポンサーとなった芸術家の作品を中心として多くの名作が展示されている。

ボルゲーゼ家はシエーナ出身の貴族で教皇パウルス5世を出した名門



名作の邸宅内設置場所



- ① アンтониオ・カノーヴァ;「パオリーナ・ボナパルテ」ベルニーニ; ②「ダビデ」、③「アポロとダフネ」、④「プロセルピナの略奪」、⑥「エネアとアンキーゼ」「真実」⑧カラヴァッジョ:「病めるバッカス」「聖ヒエロニムス」、「ダヴィデとゴリアテ」「果物籠をもつ少年」「聖アンナと聖母子」「洗礼者ヨハネ」⑨ラファエロ;「一角獣を抱く女性」「男の肖像」「キリストの埋葬」⑩コレッジョ:「ダナエ」⑭ベルニーニ;「山羊アマルテア」、「ボルゲーゼ・シピオーネの像」、

プロセビーナの略奪(ベルニーニ)



大理石に彫ったと思えぬ女性柔肌にプロセビーナの指が食い込む。

アポロンとダフネ(ベルニーニ)



ダビデ (ベルニーニ作)



ポリーナ・ボルゲーゼ (カノーヴァ作)



柔らかな女体とその体を覆う布

聖母子(ジョヴァンニ・ベッリーニ作)



狩りをするダイアナと天使(ドメニキーノ作)



ラファエロの作品

キリストの埋葬

一角獣を持つ貴婦人



ポर्टレート(アンテロ・ディ・メッシーナ作)



聖なる愛と世俗の愛(ティツィアーノ作)



ティツィアーノはルネサンス時代ヴェネツィア画派の名画家の一人

Caravaggio の作品

(今回訪問の目的の一つ)

病めるバッカス



果物籠を持つ少年

みずみずしい果物



馬丁の聖母(毒蛇の聖母)



踏まれた蛇の生々しい描写。この画は聖アンナを戴く馬丁組合から依頼された作品であるが、聖アンナが醜く描いたことから受け取りを拒否された。後にボルゲール卿に買われた。

ダビデとゴリアテ



執筆するヒエロニムス



ヒエロニムスはラテン教会四大博士の一人。ローマにて神道を学んだ後、シリアの砂漠で数年間隠修生活をおくり、ウルガタ聖書の翻訳をおこなった。写實的に描かれている。

洗礼者ヨハネ



展示の様様



ローマ第2日目朝

スペイン広場へ

スペイン大使館の近くにある広場。ローマの休日のロケに使われた。



長い階段の天辺にトリニタ・ディモンティ教会がある



広場にある舟形の噴水



テラスからローマの街が良く見える。快晴だが9月末というのに暑い日。

2日目午後

Caravaggio を探しに教会を巡る

サン・ルイージ・ディ・フランチェージ教会 (Chiesa di San Luigi dei Farncesi)

1518年～1589年に掛けて建設された。聖母マリア、聖ドニ、フランス王聖ルイ9世に捧げられている。

ローマ在住のフランス人のための国民教会

内部



天井画(ドメニキーノ)





中央に向かって左側に Caravaggio のマタイの生涯を描いた 3 部作が掲げられている。

聖マタイと天使



聖マタイが出現した天使にスコラ哲学を教授される場面を描いたもので、出現した天使を目撃し驚愕する聖マタイの表情と白い布地を纏う天使が暗の中に浮かびあがる様が写實的に描かれている。右は最初に収めた画でマタイの組んだ足が強調され過ぎていて、祭壇画に合わないと感じ取りを拒否され、現在のものに描き直された。

マタイの召命



日

銭を数える収税人マタイを巡礼に誘うキリスト
聖書の登場人物を市井の人に置き換え、物語を現実として表現している。
Caravaggio が最も得意とする巧みな光と影により人物の表情と立ち位置を表現している。

マタイの殉教



刺客

刺客の背後にいる人物
(カラヴァッジョ本人)

エジプト王ヒルタコス が、その王女の美しさに恋をして妻にしようとしたところ、聖マタイが反対した。怒ったヒルタコスが刺客を送るこんでマタイを殺害した。

サンタアグスティーノ教会 (Basilica Di S. Agostino)

ロレーヌの聖母



今回の Caravaggio を巡る旅で最も観たい画の一つであった「ロレーヌの聖母」

光輪によって示される聖母子の姿と土下座する農民の足裏は土に汚れており、慎ましやかな雰囲気が画面全体に溢れている。聖母は Caravaggio の友人である娼婦をモデルにしたという。

この画を観るために訪問した日にはなんと結婚式が行われていたために入館できず、観ることが叶わなかった。

サンタ・マリア・デル・ポポロ教会(Chiesa di Santa Maria del Popolo)

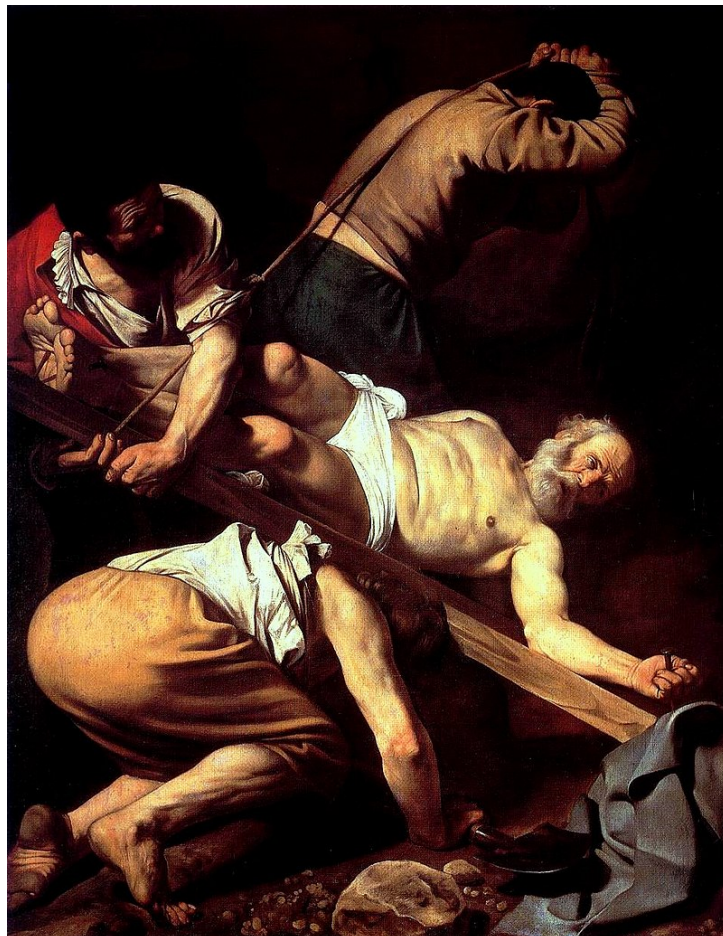
11世紀に市民(ポポロ)が資金を負担して建てられた。多くの優れた美術品を保有する。
残念ながら臨時休業で入館できなかった。

チェラージ礼拝堂



中央にカラッチ作「聖母被昇天」左右にカラバヴァッジョ作「ペテロの磔刑」と「パウロの回心」

聖ペテロの磔刑



パウロの回心



パウロがダマスカスに向かう途中で復活したキリストと出会い、回心する劇的な場面を描いた。

下の画はカラヴァッジョが注文を受けて最初に描いた画。結局この画は受け取りを拒否され、上の画に描き直した。拒否された理由は不明である。



サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ教会

この教会は名前に vincoli(鎖の意)があるように、ローマの聖人ペテロが牢につながれていた鎖が祀られている。教皇ユリウス二世が自身の霊廟をミケランジェロに依頼し、その装飾としてモーゼ像を創作した。ミケランジェロはカッターラで自ら石選びをしたが、霊廟としては完成をみなかった。



教会へは急峻な坂を上って辿り着くが、一見何の変哲もない外観

教会内部



市民の結婚式が行われていた

天井画



チンツィオ・パッセリーナ・アルドブランディーニ霊廟

キリストの埋葬



モーゼの像(ミケランジェロ作)

ユリウス 2 世の霊廟の装飾として創作されたものではあるが、ミケランジェロが実際に創作したのはモーゼの像を含む下の部分だけで上部は弟子が作成したといわれている。



左を向くモーゼ

ミケランジェロが自ら大理石を探して制作したという見事な作品